

住みよいまちに

市民活動センターのミーティングスペースでは、リンパマッサージの普及などを進める市民活動団体「湘南リンパ四季の会」の会員らがイベントの打ち合わせをしています。センターは市内で活動する団体やボランティアらの活動拠点になっています。詳しくは2面へ。



目次	1～3面… 特集 活動を活性化する市民活動センター…同センターの機能などを紹介します。	8面…「写真レポート」「次回納期の市税・手数料」「がんばれ湘南ベルマーレ」「市長こらむ」	◎発行 平塚市 ◎編集 秘書広報課 〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号 ☎0463-23-1111 ㊚0463-23-9467 http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/
	4～7面…「平成26年度決算」・募集・お知らせ・健康と福祉・スポーツ・「お知らせ掲示板」など	広報ひらつかのPDF版と電子書籍版やデジタルアーカイブは、市ウェブからご覧いただけます。	

活動を活性化する 市民活動センター

市民活動センターは平成15年5月の開設以来、市民活動団体への情報の提供、相談業務などを通して、市民活動を支援しています。市民活動団体やボランティアは同センターを利用し、活発に活動を続け、住みよいまちづくりを進めています。

☎ 市民活動センター ☎21-7517



市民活動センターの役割を説明する山本主任

活動の打ち合わせをする市民活動団体の会員らの声でにぎわう市民活動センター。JR平塚駅南口から徒歩2分、J Aビルかながわ2階にあるセンターは会議室や展示スペースなどがあり、市民活動やボランティアを支援する拠点として多くの市民に利用されています。10月末現在、センターには330の市民活動団体が登録されています。団体登録することでセンターウェブへの掲載や「ボランティア&市民活動見本市」「市民活動センターまつり」(3面下囲み記事)の市民向けのイベントなどで、活動がPRできます。センターを所管する市協働推進課の山本夏枝主任は「団体の活動内容が市民に分かりにくいところがあります。外に活動をPRする機会を増やし、市民との壁をなくす支援をすることも私たちの役目です」と力強く話します。

活動拠点でできることは？

原則、市民活動団体の登録が必要です。利用時間は午前9時～午後10時です。

ミーティングスペース 打ち合わせや交流の場として利用できます。(登録不要)

会議室 会議や研修に利用できます。ノート型パソコンやプロジェクターなども貸し出しています。

情報スペース インターネットに接続しているパソコンが利用できます。(登録不要)

展示スペース 団体の活動報告など、1カ月間展示できます。(予約必要)

図書スペース 市民活動に関する図書や資料が閲覧できます。(登録不要)

掲示スペース パンフレットやボランティア募集の案内などを掲示できます。(登録不要)

その他、ロッカーや会議などの間に子どもを遊ばせるためのキッズルームなどがあります。

活動資金も助成

主任。「つながりを深め、視野も広がると好評です」と話します。交流会でお互いの活動を知り合うことで、互いに協力する団体もいます。

センターに寄せられる相談は資金の確保や運営方法、会員の減少などさまざまです。最も多い相談の一つが活動資金の問題です。団体が市民活動をしていく上で活動資金は必要不可欠です。市が出資している公益信託「平塚市民活動ファンド」は、活動の活性化のために、入門コース10万円、発展コース50万円を助成しています。平成15年からこれまで延べ138団体が活用しています。

「助成金だけではなく、団体が自らお金を集められるような支援もしています」と話す山本主任。センターでは財源講座をはじめ、団体の活性化やプロモーションなどをテーマにした講座を年6回開

活動が見つかる

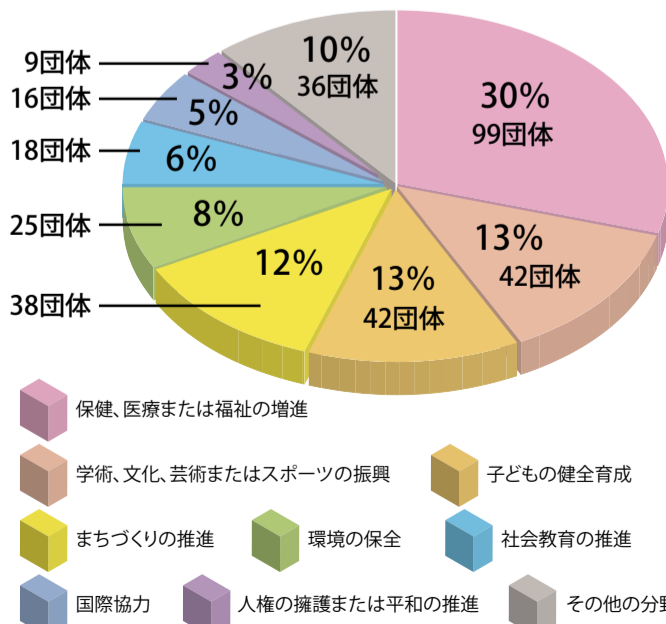
催し、団体の質の向上をサポートしています。

市民活動センターは市民活動団体以外にも、サークルや同窓会などの一般団体や個人のボランティアが情報収集の場として利用しています。「私たちは市民活動団体とボランティアをつなぐ仕事もしています」と山本主任は話します。センターには、福祉や環境など目的を持ってボランティアを探しに来る方だけではなく、漠然とボランティアをしたいという相談者も訪れます。「得意分野や活動時間など、じっくり話を聞いて、それぞれに見合った市民活動を紹介しています」と話します。センターでは毎年7月下旬～9月下旬に、中学生以上が団体の活動を体験するユースボランティアを実施しています。今年57人の参加者それぞれ24団体の中から市民活動を体験しました。参加者の

多様化する市民ニーズ

市民活動センターに登録する市民活動団体は年々増加しています。センターの登録団体は、開設した平成15年度は175団体でしたが、26年度は325団体が登録しています。19分野の団体があり、幅広く活動しています。「保健、医療または福祉の増進」は最も多く99団体が登録しています。平塚市は湘南ベルマーレのホームタウンであることや多くの河川が流れる土地柄からスポーツや環境の分野も多いことが特徴です。センター開設年度と比較すると、「社会教育の推進」「まちづくりの推進」などの分野が大きく増加しています。団体数の増加は、市民ニーズが多様化していることを表しています。

平成26年度 分野別団体割合



必要とされる喜び

市民活動センターは10代の若者から80代以上の高齢者ま

多くは高校生と大学生です。中学生は減少傾向にあります。が、昨年から体験期間を1カ月長くしたことで、専門学生や社会人も参加でき、参加者は広がっています。「熱心に活動する学生が多くて、質は上がってきています」と山本主任は話します。

で幅広く利用していますが、多くは50～60歳代です。市民活動団体の会員は、定年を迎えた方や子育てが一段落した主婦も多いと言います。「会員の中には『市民活動で誰かに必要とされたり、問題を解決するために考えたりすること、健康でいられる』という方もいます。成果がダイレクトに返ってくる市民活動は、生きがいにもなっているのではないのでしょうか」と山本主任はほほ笑みます。

市民活動センターを利用する団体の活動

楽しく日本語会話

カベラ日本語の会

「あなたの趣味は何ですか」「私ノ趣味ハ野球ヲ見ルコトデス」。横内公民館(横内2506)の日本語教室に片言の日常会話が飛び交います。

教えるのは市民活動団体「カベラ日本語の会」。横内団地に移り住んだインドシナ難民を支援するため平成4年5月に設立しました。インドシナは主にカンボジア・ベトナム・ラオスの3カ国で、同会の名前はこの3カ国の頭文字をとっています。

設立当初は外国人が多く住む横内地区に



ある横内公民館で教室を始め、同年には中央公民館にも開設。平成15年に市民活動センターができたことで同センターに新たなクラスを開設しました。同会会員の永井祐子さんは「センターの研修室やロッカーを借りることができるので、新たに教室を開設しました」と話します。

同会は毎年、市民活動センターが開く見本市で団体を紹介し、会員を募集しています。定年退職者や主婦など、毎年1~3人が入会。現在は30人います。

三つの教室で約80人が受講する外国人は就職や日本語能力試験の合格、同じ出身国の人と交流するために受けている人もいて、目的や年齢、国籍もさまざまです。永井さんは「人は萎縮していると物事を覚えるのが難しいと思います。なるべく笑って楽しんで日本語を覚えてもらいたいですね」とほほ笑みます。

兄弟のような存在に

平塚地区BBS会



「分からない問題あるから教えて——」

吉沢公民館(上吉沢395)に響く児童の声。吉沢地区町内福祉村「ひだまりの里」が主催する寺子屋では、神奈川大学の学生らで構成する平塚地区BBS会が小学生に勉強を教えています。

BBSはBig Brothers and Sisters Movementの略称で、日本BBS連盟に加盟し、青少年に健全な発達支援などをする団体として平成16年に設立しました。

「まず非行に走らせないための取り組みをしています」と話すのは会長を務める神奈川大学3年生の温井皇奈子さん。非行防止活動の一環として、平成23年から寺子屋を始めました。勉強の合間にはドッチボールをして遊んだり、おやつを食べたりして、子どもたちのにぎやかな声は絶えません。

同会は保護観察の少年の自立支援活動もしているため、専門的な知識が必要です。市民活動センターの会議室を利用し、定期的に勉強会などを開催し、会員のスキルアップをしています。「長期休みは学校が使えないので、センターのフリースペースを利用させてもらっています」と話します。

現在59人が入会している同会。会員は講義やアルバイトなどの合間に、寺子屋などに教えにきます。

「子どもの成長を見れてうれしいです。今後も少年らの姉や兄のような存在になれるよう、活動を続けていきたいですね」と温井さんは語ります。



宿題を教える温井さん(右)

絆でつなぐランナー

木曜ランナース

毎週木曜の夜に総合公園に集まる木曜ランナースの会員。全盲や弱視の障がい者と健常者、約20人が1周約600mのランニングコースを一緒に走ります。「活動を始めた当時、木曜日は不思議と雨が降らなくてね。それが団体名の由来になったんだ」と内野慎吾会長は話します。

木曜ランナースは平成2年に社会福祉協議会が開催する福祉フェスティバルで、障がい者と伴走したことがきっかけで設立。

練習では、障がい者と健常者が「絆」と言



われるひもを手に持ち、障がい者のペースに合わせて並走します。「歩くことから始めた障がい者も、今では速い人だと1周3分台で走りますよ」と内野会長は笑顔を見せます。

設立当時、会員は4~5人



程度でしたが、活動が口コミで広がり、現在では45人に。「平均年齢は54歳と高齢化が進んでるけど、最近は中学生や高校生ら、若い参加者が増えている」と話します。

木曜ランナースは市民活動センターが募集するユースボランティアで毎年、学生ら若者を受け入れています。学生らはアイマスクをしてランニングするなどの体験を経て、障がい者と伴走します。体験期間が終わっても引き続き、伴走している学生も多いそうです。「ユースボランティアを通して障がい者の気持ちを理解するきっかけになるのでは」と内野会長は話します。

「走ることが夢だ」と話していた障がい者は、練習を重ね、今では自然に走れるようになりました。「『生きていてよかった』という言葉が聞いたり、汗を流して走る姿を見たりすると、何とも言えないやりがいを感じるんだよ」と笑顔を見せます。

イベントで市民活動をPR

市民活動センターでは、毎年、9月下旬に市民活動センターまつり、3月中旬にボランティア&市民活動見本市を開催しています。

市民活動センターまつりは約50団体が参加。今年は9月27日に開催し、各団体はマジック教室やダンス教室などの体験コーナーや展示などで活動を紹介しました。

見本市は市民活動団体がそれぞれブースを出店し、活動を紹介するほか、ボランティアの心得などの講座を開催。「地域や社会のために何か役に立ちたい」という方と市民活動団体をつなげています。



塗り絵を使ってパソコン操作を体験する参加者

市民活動センターまつりで募集する市民活動団体の活動にも友達を誘って参加しています。夏休みにはユースボランティアで「湘南ベルマーレゲームボランティア」や子育て支援

に取り入れています。市民活動センターで募集する市民活動団体の活動にも友達を誘って参加しています。夏休みにはユースボランティアで「湘南ベルマーレゲームボランティア」や子育て支援

中 学校卒業後もボランティアをしたという思いから、高浜高校の福祉教養コースへ進学しました。福祉教養コースは介護や保育の施設での体験実習などを積極的に取り入れています。

市民活動センターまつりで来場者を案内する、高浜高校3年の荘埜澄英さん(下写真)。「いろいろな人たちとの絆ができて楽しい」と話します。中学1年生の時に福祉委員になったことがきっかけでボランティアを始めました。

高 校卒業後は学校やボランティア活動で学んだ経験を生かし、保育や介護の資格を取りたいと話す荘埜さん。「これからもボランティアを続けていきます」と力強く話します。

をする「NPO法人ワーカーズ・コレクティブ」やボランティアなど7団体の活動を体験しました。「立ち仕事が多くて足腰が疲れるけど、学校では経験できない世代の違う人たちとの交流ができるので楽しいです」と笑顔を見せます。



これからもボランティア

平成26年度の平塚市決算報告

歳入・歳出ともに増加

平成26年度の決算は歳入(収入)・歳出(支出)ともに前年度を上回りました。大型事業では、新庁舎建設事業の1期工事が完成し、新たなまちづくりの拠点となる新庁舎での業務を開始しました。

財政課 ☎21-8765

一般会計

歳入 862億9,767万円

一般会計

歳出(性別) 819億4,422万円

市税	432億8,142万円 (50.2%)	自主財源	義務的経費	扶助費	209億4,736万円 (25.6%) (生活保護費・保育所の運営費など)
自主財源	税金や使用料・手数料など、市が自主的に収入できる財源です。自主的な行政運営を進めるには、その確保に努める必要があります。平成26年度の市の自主財源比率は65.8%です。繰入金、諸収入が減ったことなどにより、前年度比で2.4ポイント減りました。			人件費	149億5,720万円 (18.2%)
諸収入	45億4,644万円 (5.3%)	依存財源	その他の経費	公債費	51億5,181万円 (6.2%)
前年度繰越金、基金繰入金など	89億2,661万円 (10.3%)			普通建設事業費	85億9,603万円 (10.5%)
国庫支出金	126億4,502万円 (14.7%)			災害復旧費	4,489万円 (0.1%)
県支出金	53億4,988万円 (6.2%)			物件費	109億2,651万円 (13.3%)
市債	60億4,410万円 (7.0%)			補助費等	45億1,531万円 (5.5%)
地方譲与税、各種交付金、地方交付税など	55億4,199万円 (6.3%)			維持補修費	10億4,775万円 (1.3%)
				繰出金、積立金	123億647万円 (15.0%)
				投資及び出資金、貸付金	34億9,752万円 (4.3%)

※表中・文中の金額は、表示単位未満で四捨五入して1万円単位にしているため、合計が合わないところがあります。

歳入 ↑2.8%増

平成27年度に繰り越した事業の財源を差し引いた実質収支は、36億9,309万円の赤字でした。

歳出 ↑2.4%増

環境事業センターの完成により、投資的経費が大幅に減少しましたが、扶助費の増加などにより、前年度より19億4,598万円増えました。

市税(0.9%増)

前年度より4億251万円増え

人件費(3.6%増)

市職員の給与や手当、退職金などにかかる費用です。定年退職者が増え退職手当が増加したことなどにより、前年度より5億2,505万円増えました。

公債費(1.2%増)

市債の元利償還や一時的な

特別会計

七つの特別会計の歳出の合計は732億2,417万円、前年度より17,999万円(0.2%)減りました。

会計(事業)名	歳入	歳出
競輪	183億4,658万円	179億7,418万円
国民健康保険	286億2,492万円	280億2,440万円
下水道	84億8,065万円	82億285万円
水産物地方卸売市場	1,444万円	1,310万円
介護保険	159億7,964万円	155億8,503万円
農業集落排水	6億4,018万円	6億362万円
後期高齢者医療	29億8,295万円	28億2,099万円
合計	750億6,936万円	732億2,417万円

効果的な広報活動などで、収入を確保し、一般会計に2億5,000万円を繰り出しました。

国民健康保険事業

一般会計から28億6,872万円を繰り入れました。歳入に占める保険料収入済額の割合は22.3%でした。

介護保険事業

一般会計から22億3,104万円を繰り入れました。歳入に占める保険料の割合は21.5%でした。

農業集落排水事業

土屋地区と吉沢地区の汚水処理施設を整備する事業です。一般会計から1億500万

下水道事業

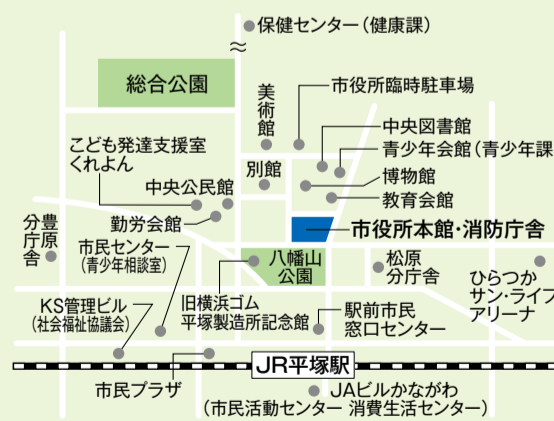
一般会計から39億7,000



平成26年7月から新庁舎での業務を開始しました

応募方法

- 募=応募方法 (応募が必要です)
- 問=問い合わせ
- 必要事項とある場合、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号をご記入ください。
- 市役所への郵便物は、〒254-8686平塚市役所〇〇課で届きます。
- 募集開始日の記載がない場合、11月24日(火)午前8時30分から、受け付けます。
- メールの応募の場合@以下にcity.hiratsuka.kanagawa.jpを付けてください。



記入例

住所	〒254-8686平塚市役所〇〇課	郵便番号	〒254-8686
氏名	氏名	住所	住所
	全員の氏名	住所	全員の住所
	電話番号	電話番号	全員の電話番号
	その他の事項	その他の事項	その他の事項

募集

原爆被爆体験をさく会

12月5日(土)午前10時～正午
大野公民館(東真土2-12-1)
100人(先着順・小学校3年生以下は保護者同伴)。
必要事項(小学生以下は年齢も)を、電話・ファクス・メールで、行政総務課 ☎21-9754 ㊟23-9467 ㊟50@.mu. に。

子ども竹細工教室

12月19日(土)午前10時～正午。青少年会館。市内在住の小学校3～6年生20人(抽選・初めての方を優先)。水彩絵の具はさみ。500円。汚れてもよい服装でお越しください。

再生家具を提供します

粗大ごみから再生可能な家具を修理・再生して、提供し

参加経験の有無を、はがき・ファクス・メールで、12月3日(木)までに、〒254-0041 浅

主な事業と決算額

◆子育て・教育環境の整備

地域子育て支援推進事業 3,993万円。

子育て支援センター事業やつどいの広場事業(右写真)などで、子育て中の不安や疑問への相談援助をしました。



公立園幼保一元化推進事業 556万円。港幼稚園と須賀保育園を統合して、(仮称)港地区認定こども園を設置するための実施計画を進めました。

小学校運営事業 3億1,530万円・**中学校運営事業** 1億7,450万円。児童生徒の安全を守るため、市内の小・中学校43校すべてに防犯カメラの設置などをしました。

中学校施設管理事業 4億191万円。市内の中

学校15校すべての図書室と音楽室に空調設備を設置して、快適な学習環境を整えました。

◆商業・産業支援

商店等魅力アップ推進事業 136万円。伝統的な技術や独自のサービスがある9店舗を「匠の店」として、初めて認定しました。

企業立地等促進事業 5,905万円。企業の誘致などのため、事業所の新增設や環境設備の設置へ助成しました。また、市内事業者への発注を促す新たな助成制度を始めました。

◆美しいまちづくり

道路施設維持管理事業 5億289万円。道路の安全性を保つとともに、「バラを始めとした花のまちづくり」の一環として、JR平塚駅北口広場や駅前大通り線にバラを植えました。

ごみ収集運搬事業 1億1,336万円。小型家電と蛍光灯の分別収集を始めました。

◆防犯・防災体制の強化

防犯施設整備事業 7,816万円。市が管理する防犯街路灯をリース方式により一括LED化

するなどしました。

風水害対策事業 3,080万円。県による土砂災害警戒区域の指定を受け、適切な避難行動に役立てるため、土砂災害ハザードマップを作成し、市内全戸への配布などをしました。

◆地域での暮らしを支える

成年後見利用支援センター設置事業 1,805万円。成年後見制度に関する相談や普及啓発、市民後見人の養成や支援の拠点となるセンターを平成26年9月15日に開設しました。また、県などと共同で研修をしました。

◆高齢者支援の充実

高齢者生活支援事業 2,879万円。在宅時緊急通報システムの鍵預かりシステムを導入するなど、高齢者の見守り体制を強化しました。

二つの大型事業

平成26年度の決算額は次のとおりです。

- ・市役所の新庁舎建設事業 37億6,315万円
- ・市民病院整備事業 10億8,250万円

市民病院

円を繰り入れ、市債を2億9,280万円借り入れしました。市債の借入残高は21億1,460万円です。

▼後期高齢者医療事業
一般会計から4億3,962万円を繰り入れました。歳入に占める保険料の割合は73.6%でした。

病院事業会計の総収益は115億4,890万円、総費用は118億8,104万円でした。

受診すべき診療科が明確でない患者の最初の窓口となる「総合診療科外来」や、入院時の事務を効率化する「入院受付センター」を設置するなど、安心して医療を受けられる体制を整えました。また、「高周波手術装置」などの高度医療

将来を見据えた財政運営

自治体の経営能力を測る指標として「健全化判断比率」があり、四つの指標で「早期健全化」などの必要性を判断します。

比率の算定が始まった平成19年度から8期連続でいずれの指標についても早期健全化基準を下回っています。また、公営企業の健全度を示す「資金不足比率」も資金不足がないため、比率が算定されませんでした。

この指標からは平塚市の財政がすぐに破綻する心配はないと見て取れます。しかし、社会保障関係費の増加、公共施設の維持管理など、今後も歳出は増加が見込まれています。そのため、引き続き健全な財政運営が求められます。

市の財政健全化判断比率と資金不足比率(平成26年度決算)

比率区分	健全化判断比率	
	健全化判断比率	早期健全化基準
実質赤字比率	一般会計の歳入に対する赤字の割合	なし 11.29%
連結実質赤字比率	全ての会計の歳入に対する赤字の割合	なし 16.29%
実質公債費比率	年間の借金返済額の割合	2.3% 25.00%
将来負担比率	将来、負担が見込まれる負債の割合	0.5% 350.0%
資金不足比率	なし	

市全体の市債現在高は減少

市債現在高(1・0%減)

市債は市の借金です。学校や道路など多額の費用が必要で、長期間利用する施設を整備する場合や、財源が足りないときに、国や金融機関などから借り入れます。

一般会計・特別会計・病院事業会計を合わせた市全体の市債現在高は108億5,616万円となり、前年度より11億1,177万円減りました。一般会計では、前年度より5億4,200万円多い60億4,410

機器を導入し、より安全な医療体制を整えました。

一般会計からの繰り入れは10億796万円、企業債現在高は41億9,138万円です。

財政健全化で年間5億9,100万円の成果

主な取り組みと効果額

歳出削減額の合計 1億8,033万円

- ・人件費の削減(市長らの給与や、職員の手当の削減など) 5,944万円
- ・行政運営経費の削減(事務事業の整理・合理化など) 2,460万円
- ・民間活力の活用(指定管理者制度の導入やDBO

方式による運営など) 7,470万円など
歳入確保額の合計 4億1,162万円

- ・市税などの収入の確保(市税収納率の向上など) 3億2,203万円
- ・受益者負担の適正化(使用料などの見直し) 743万円
- ・その他の収入の確保(ネーミングライツ料収入の確保など) 8,216万円

☎ 企画政策課 ☎21-8797

万円を借り入れしました。市債現在高は53億9,292万円で、前年度より15億2,537万円増えました。

▼財政調整基金(11・3%減)
基金は市の貯金です。年度の財源の不均衡を調整するために、財政調整基金として積み立てています。26年度は25年度より7億9,823万円減り、基金の現在高は62億9,194万円になりました。

庁舎建設基金など市全体の基金の現在高は18億9,197万円です。

住基カードの交付を終了します

平成28年1月からの個人番号カード(マイナンバーカード)の交付開始に伴い、住民基本台帳カード(住基カード)と公的個人認証(電子証明書)の交付を平成27年12月で終了します。

引き続き必要な方は、交付終了日までに更新手続きなどをしてください。

即日交付の方 受付終了日(住基)12月26日(土)(電子)22日(火)。

即日交付できない方 受付終了日(住基)21日(月)(電子)17日(木) 交付終了日(住基)26日(土)(電子)22日(火)。

26日(土)は、窓口は正午までです。
☎ 市民課 ☎21-8773

住の小学校3・4年生20人(抽選)による運営など) 7,470万円など
歳入確保額の合計 4億1,162万円

・市税などの収入の確保(市税収納率の向上など) 3億2,203万円

・受益者負担の適正化(使用料などの見直し) 743万円

・その他の収入の確保(ネーミングライツ料収入の確保など) 8,216万円

☎ 企画政策課 ☎21-8797

市民アカデミー講座

ネット講師が英語を初めて学ぶ子どもにも教えます。楽しく英語に触れませんか。

12月12日(土)平成28年1月30日(土)全6回、午前10時~11時など。1月30日は中央公民館まつりで成果発表をします。中央公民館。市内在住の小学校3・4年生20人(抽選)による運営など) 7,470万円など
歳入確保額の合計 4億1,162万円

・市税などの収入の確保(市税収納率の向上など) 3億2,203万円

・受益者負担の適正化(使用料などの見直し) 743万円

・その他の収入の確保(ネーミングライツ料収入の確保など) 8,216万円

☎ 企画政策課 ☎21-8797

援農ボランティア

市内の農家で、農作業を手伝いませんか。

次の条件を全て満たす方① 高校生を除く18歳以上で健康② 市内在住③ 援農研修に3回参加できる。

作業の時間や内容は受け入れ農家によって変わります。詳しくは市ウェブをご覧ください。

☎ 豊原分庁舎2号館2階の農水産課 ☎35-8103や市ウェブにある申込書を、電話連絡の上直接、同課へ。

クリスマスキャンパス

びわ青少年の家(土屋2710-1)で、ジュニアリーダーと一緒に過ごします。

12月24日(木)午後2時30分~25日(金)午後5時。青少年会館集合・解散(びわ青少年の家に直接行く方は、24日午後3時集合。解散は青少年会館)。

市内在住の小学校6年生36人(抽選)。1000円。

☎ イベント名:必要事項・学校名を、ファクス・メールまたは直接、12月3日(木)までに、〒254-0041浅間町12-41青少年課 ☎32-7029 FAX ☎31-1441 seishonen@h.

多重債務相談会

認定司法書士と生活支援相談員に相談できます。

12月8日(火)午後1時~4時。本館5階市民情報・相談課。4人(先着順)。1人45分。

☎ 電話または直接、市民情報・相談課 ☎21-8764へ。

▽間町12-41青少年課 ☎32-7029 FAX ☎31-1441 seishonen@h.

選・初めての方を優先。300円。

☎ 保護者・子どもの必要事項、子どもの学年を、はがき・メールまたは直接、平成27年11月27日(金)までに、〒254-0047 追分1-20 中央公民館 ☎34-2111 chuoak@h.